

光といのち

第75号

2012年3月1日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメールino-teyy@khaki.plala.or.jp

住職 井上孝昌

法語

自分の
価値観から
一歩出ると
心が開かれる

三橋尚伸

春陽の候となりましたが、寒い
せいか境内の梅はまだ蕾を少し開
いただけです。

皆様、いかがお過ごしですか。
もうすぐ東日本大震災から一年
が経ちます。

依然として大変な状況が続き、
私たちにも様々な形でその影響は
及んできているわけですが、現地
のことを努めて知るようにならな
い、日々の生活に流され、この震災
を過去の事にしてしまいがちです。

さて日本の国は、仏教が大切に
している日を国民の祝日に定めて
いると、ある人が教えてくれまし
た。春分の日と秋分の日のこと



す。いずれも彼
岸の中日です。
彼岸中には、
墓参りをする人
が多くなります。

そこで今号では、墓参りにつ
いて考えます。

坊主の「不信心」とはよく言
ったもので、実は私はほとんど
墓参りはしません。我が家の墓
参りは母親がしています。高齢
になり墓所まで行くのが大変そ
うで、困ったなと思っています。

皆さんは、住職がそれでは「け
しからん」とお思いでしょう。
しかし屁理屈を言うようです
が、墓参りを説くお経を見たこ
とはありませんし、親鸞聖人が
「墓参りをしなさい」と仰るは
ずは無いと思います。

日本人は、仏教の風習として
墓参りをしています。私には
仏教と墓参りが、どう結びつく
のかずっと疑問でした。
皆さんは、どんなつもりで墓
参りをしていますか？

①習慣だから

②祖父母や親の付き合いで

③世間の目が気になるから

④故人がかわいそうだから

⑤死者に崇められないために

⑥先祖をまつる義務から

⑦故人に会いたいから

⑧否、そんなことはしていない

思いつくままに挙げましたが
該当するものはありましたか？

亡き人を拝む私が

亡き人から拝まれている

迷うな」と

生きる」と

金子大榮

この言葉のように、亡き人か
ら「迷うな生きる」と拝まれて
いる自分に領けたら、それはす
ごいことだと思えます。亡き人
は自分にとって仏様であると拝
まれてくることでしょうか。

そうなるとこれは仏様と仏様
との共感、感応道交です。南無
阿弥陀仏を生きている自分の発
見という言い方もできると思
います。見出しの法語で言えば、自
分の価値感から一歩出たら、心
が開けた」という世界でしょう。

つまり我執か
ら解放され救
われている。
仏教が説く
救いは、こう
いうことだと
思います。



玄関前の手水鉢

墓参りが仏教になるかどうか
は、その縁に遭遇かどうか、
それが要「かなめ」だと考えます。
南無阿弥陀仏」と、お念仏を
称えましょう。そして、このこと
を思い出して墓参りしてください。

四月八日はお釈迦様の誕生日、
「花まつり」です。

子どもたちと、いっしょに楽
しく過ごそうと計画しています。

- はじめに
- 住職のお話
- 甘茶かけ
- みんなでゲーム
- お菓子の時間
- おわりに

参加は無料です。

参加を希望する方は、準備の
都合がありますので、3月末日
までにご連絡ください。

―カウンセリングの現場から―

みつはし しょうしん
三橋 尚 伸

二〇年程前になるだろうか、私はがんでつらい思いをしている方々や、その家族との集いに出席していた。当時はがん患者さんの多くが、死にたくないのに死ななければならぬという苦しみを抱えているのだらうと思っていた。これは一つの事実ではあった。しかしその逆に、多くの患者さんが、死にたいのに死ねない苦しみを抱えているという事実に驚いた。ある人は、病気が治らないことがわかっていくのに生きなければならぬ虚しさを訴え、早く阿弥陀仏のお迎えが来るようにと切望する。自分の願いだけでは実現しないとわかると、僧侶であるあなたからも阿弥陀仏に頼んで欲しいと訴える。

何である時、あのまま死ななかつたのだらう。何で生き延びてしまったのだらう……。あなたはせっかく命をいただいたのだから、もっと何かをして楽しく生きなさいって皆言うけど、毎日何をしろって言うの？ 何をしたら虚しいだけ。こんな時間がいつまでも続くと、困っちゃう……。毎日毎日、どうしたら死ねるかを考えてるのよ。でもねえ、どうしたらいいのかわからなくて、困っちゃうの……。お願いだから、早く逝かせてって、あなたから頼んでちょうだい」。ベッドの上で、何の目的も持たずにひたすら折り紙を折って時間を消化する。食事の時間になれば、定期的に出される食事をまるで義務の様に摂取する。出来ることが、日々確実に減ってくる……。命の残りの時間に意味が見出せずに虚しい思いを抱えて生きていくのである。隣のベッドに目を移せば、もっと生きたいのに死ななければならない人がいる。どちらも自分の現状に意味を見出せずに、虚しく存在している苦悩に焦燥しているのである。スピリチュアル・ペイン」と呼ばれるこの苦悩に、一体誰が、どの様に応えられるのだろうか。

早く逝きたいと言うその人の思いに添いながら、私は早く逝けるといいね。私からも阿弥陀さんをお願いしてあげるから、苦しいだらうけどもう少ししのいでね」と、約束した。突然その人の声の調子が力強く変わり、そう言ってくれる人がいなかったのよ」と言っ、目に涙があふれ出た。そして、有難い、有難いと言いながら、私の手を両手で包んで何度も揺さぶった。私達は、いざれ別れなければならぬ寂しさを互いに心の奥にしましながら、長い間強く手を握り合っていた。臨終を迎えるのに、それ程長い日数は必要ないのかもしれないと思

ながら、私はベッドから離れた。それから数日後、家族と共に食事をしに外出するその人の姿を見た時、何だかとても元氣そうに見えた。何か吹っ切れた様に見えた。このまま治ってしまうのではないかという妄想を抱いてしまう程、しっかりとした足取りで歩いていたのである。その後も何回か会う機会を持つことが出来たが、訴えるのはいつも、まだ生きていくので、困ってしまう」というものだった。今年最後の面会をしたと思いい、年末に病院に行くと、その人はすでに亡くなっていたことを知らされた。最期の夜、夜勤の看護師さんに傍にいて欲しいと頼んだそうである。その人がたつた一回だけ甘えられた時間であった。

臨終の時には、間違い無く阿弥陀仏と数え切れない程の仏・菩薩達が迎えに来てくれたに違いない……。不可逆的な病気になる、多くの日本人は神仏から罰を与えられたと思うようである。これは、日本人が昔から見聞きし、教えられて来た「善因善果、悪因悪果」という思想が根深く影響しているように思える。病氣や悪い出来事、不幸に出会うのは、悪いことをしたり悪いことを考えた結果の罰であり、善いことをすれば必ず善い結果が得られる筈だという考え方である。私達はこのメッセージを、親からも学校でも知らず知らずの内に無防備に受け取り、世の事実を見ないで生きている。

自分の思い通りに事が運んでいる時には、自分の命を自分で動かしていると思いい、幸運は自らの努力の結果というような、自分にとって都合の良い原因を考える。そこに神仏との出遇いはもたらされない。しかし善果を求めてどれだけ善行に努めても、悪果を受けることがあるからこそ、この世は不条理に満ちているのではないのか。不条理の生を受け、不条理の世を生死してゆくスピリチュアルな苦悩を訴える人間の、闇からのうめき声が日々私に届く。死ぬ時期も死に方も、自分の自由にはならないのだ。自分の思い通りの時に、思い通りの方法で、生き、死ぬことは出来ないのである。「不条理」という病氣の身が顕わしている事実を生きるしかない。苦からの解放を切望しながら……。死に執着し、生に執着しながら……。そこで、初めて仏に出遇う。

『連続無窮』第4号 連続無窮の会 闇からのうめき③―カウンセリングの現場から―から抜粋

戦没者慰霊碑の香炉の寄進

石の香炉が割れていましたが、三堀正治様が新調してくださいました。



この碑には、戦争で亡くなられた18人の名前が記されています。

身近な方を戦争で亡くした二部区の人々が一九五〇（昭和二十五年）年五月二十八日に建立しています。

戦死した方々を直接知る人も少なくなってきましたが、戦争の無い平和を願うこの碑を建立した方々の気持ちを、私たちは受け継いでいかなければなりません。

焚き火と甘酒の接待



除夜の鐘を突きに訪れる50人ほどの人を、狩野平造さん、田中文雄さんらが、毎年焚き火をして迎えてくださいます。今回は、川名喜昭さんが、温かい甘酒を振る舞ってくださいました。

修正会の鏡餅

二部区中組の石井秀夫さん、能重實さん、能重雅光さん、西尾光年さんから、正月に行うこの法要にお供えする鏡餅を、毎年進納していただいております。また石井家からは、本堂の電灯料もいただいております。



仏教聴聞の場である寺の活動を護持するため、皆様から様々な形でご尽力をいただいております。まことに有り難いことでございます。

墓地周辺竹樹木の伐採

狩野平造さん、田中文雄さん、朝倉正行さんをお願いして、現在進行中です。



行事予定

- 3月20日 13時30分〜 春彼岸会
 - 4月8日 15時〜 花まつり 同朋の会
 - 4月18日 親鸞教室⑥
 - 5月17日 親鸞教室⑦
 - 5月27日 15時〜 同朋の会 お茶会
 - 6月8日 9時〜 八日講
 - 6月10日 9時〜 十日講
 - 6月10日 15時〜 同朋の会
 - 6月15日 婦人研修会②
 - 6月18日 親鸞教室⑧
 - 6月24日 8時30分〜 奉仕作業
 - 7月8日 15時〜 同朋の会
 - 8月10日 10時〜 孟蘭盆会
 - 9月22日 10時〜 秋彼岸会
 - 10月14日 15時〜 同朋の会
 - 10月21日 13時30分〜 世話人総会
 - 11月13日 13時30分〜 仏具御磨き
 - 11月16日 13時30分〜 準備・速夜
 - 11月17日 10時30分〜 報恩講
- ・・以外は当寺が会場です。

春彼岸会

三月二十日(火)

午後 一時半〜四時

法話は、真宗大谷派僧侶でありカウンセラーの三橋尚伸先生(女性)です。

勝善寺花まつり

4月8日(日)

午後3時〜5時

お子様と、遊びに来てください。

「花まつり」は、お釈迦様の誕生を祝い、私たち一人ひとりの誕生も共に祝う行事です。

